3－59－0
（包紙）
「九右衛門様　たき
人々　」

3－59－1
尚々□□□□□□□
御そもしさま□□□まし
よろしく御つたへ被下候
わたくしよりしたいに
としより候へハ
そのうへたんくの心つかいいたし
ことのほか〳〵
心ろほそく
くらし参らせ候、えんほうなから
心のたよりいたしおき候
くれ〳〵たのミ入参らせ候、かしく
十二月廿日御ふミ正月六日
弥兵衛と申人こゝもとへ
相たつね参り申され
わたくしあい参らせ候
そもしさま
かたへ
御めにかゝり参らせ候御方ニて
何かのはなし申御座候、悦
入参らせ候、貴殿□□の
めてたさと存候通ニも
御息才御としかさね被成候
御坐候、めてたく存参らせ候
わたくしも無事はる
うつり参らせ候て御座候
悦入参らせ候、さやう候へハ
おほしめしニより金百疋
御両人さまよりおくり被下
忝く候、何よりことの外〳〵
なんきの所一入〳〵忝さ

弥兵衛へくわしく［　　］
申参らせ候［　　］
御きゝ被下候、何とそ〳〵
五月まて少しの祝□□の
御とりかへのくめん被成候
御のほせ被下候へハ御坐候
忝く候、御そんしのとおり
長々□□りいたしそのうへ
うば事も□□年
おしつめ候て廿四日相はて
致候てことのほか〳〵なんき
いたしまいらせ候、わたくし
まいらせ候所となりにて御坐候
小ほり金清とのと申
人御坐候、これ御所の
御ほうかう人にて御坐候、これ
ことのほか〳〵わたくし
ねんころニいたし被下
大かたならぬせわなり
参らせ候、□□のわけは
弥兵衛とくと□□まいらせ候
いまた何れ□申と被下候
おせわなから又
おたより金清とのへ
ちよとそもしさまより
御ふミくたし被下候へハ
わたくしたき御坐候
忝さのミ入参らせ候
めてたく
かしく
正月七日
大谷九右衛門さま　　たき
同　藤兵衛さま
人々［　　］